

<今朝の聖書から>

村上定幸

【公然】今朝の7:26には主は公然と語られたとあります。この公然は“大胆とか自由に、または恐れなく”と訳してもかまわないパレーシアという言葉です。時は祭りの真最中、場所はエルサレム神殿になります。ガリラヤから出てきた大工のせがれが、ここで公然と、何ものにも邪魔されることのない権威をもって、教えておられるのです。ここにヨハネ福音書の語っていることが理解できます。それは、十字架の主、来るべき方という権威です。わざわざこの言葉を強調したのは、この言葉が神との関係における確かさも示す言葉だからです。この書物全体を流れている、十字架の勝利と復活がここにも描き出され、読まれるために書かれているのです。

【メシヤ】何処で勉強してきたかは分かりませんが、この方が権威をもって語られるのを聞いて、議員をはじめ人々は“この人がメシヤではないだろうか”と問いを抱いたというのです。議員たちはさておいて、我々は27節にあるように“しかし、わたしたちは、この人がどこの出身かを知っている。メシアが来られるときは、どこから来られるのか、だれも知らないはずだ”という、説明に終始します。メシヤというのはもっと神秘的なものだと言っているようにも聞こえます。

【大声で】この大声では、祈りでもあり、神に向ってなされたものです。それはまた説教として語られます。あなた方は、真実を知らない、すなわち不真実に生きてると語られるのです。“偽りに生きている者には私の姿が見えない”と語られます。

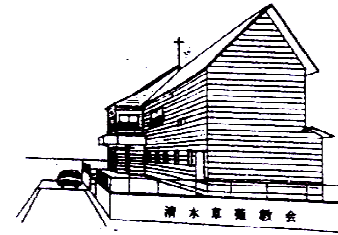
【捕らえようとしたが】次に語られるのが時です。30節は、どう理解できるでしょうか、“人々はイエスを捕らえようとしたが、手をかける者はいなかった。イエスの時はまだ来ていなかったからである”とあります。どうやってお逃げになったのかは分かりませんが、聖書が唯一説明しているのが“時”です。この“捕らえようとしたが”ですが、人々と神との関係を語っているのです。神を知っていると思っていたユダヤ人たちが、実は神と関係のない暗闇の中に立ちつくしているというのです。今朝の箇所少し後にも、さらに説明が続きます。“今しばらく、わたしはあなたたちと共にいる。それから、自分をお遣わしになった方のもとへ帰る。あなたたちは、わたしを捜しても、見つけることができない。わたしのいる所に、あなたたちは来ることができない(7:33~34)”がそれだといえるでしょう。完全に神の支配下にあるということです。神様がお決めになった確実な決定の言葉といえるでしょう。別世界という言葉を使ってもよいでしょう。寂しい感じの言葉でもあります。

【他人事ではない】目に見えない神を信じている教会が、目に見えている現実にはしか頼れない。もしそうだったら、そこには更に暗闇が広がっていることでしょう。この方がクリスマスにこの世にこられたのです。名前くらいは知っているかもしれないが“知らない”としたら、大問題です。教会の本質を見失うことになるでしょう。

【信じる人】信じる人達は、しかし主は語られます。真理であり道だと仰っているのです(14:6)。この方は先に我々に住まいを整えられる方です。

週報

2011年 11月 27日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042